

上益城郡教科等研究会（中学校美術部会） 平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

どの子どもも楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』
図工・美術のUD授業づくり

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	午前 理論研	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5 / 26	5名	御船中 学校	8 / 16	甲佐 中学 校	午後 実技研	10 / 25	小坂 小学 校	小田真莉 絵教諭	1 / 27	益城 中学 校	中川幸恵 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

中学校美術部会では、9年前から小学校図画工作部会と連携して研究を進めている。今年度は、昨年度の研究内容を引き継ぎ、3年前から掲げてきたテーマにUDの視点を取り入れた上記のテーマで小学校・中学校が協力して研究を深めてきた。

研究の主な内容は、テーマに基づいたUD授業づくりが中心となった。夏季休業日に実施した実技研修会では、午前中は研究授業へ向けての理論研修を小学校・中学校で分かれて行った。午後からは、講師として横山忠克先生をお招きし、工作の実技研修を行った。中学校では題材としては取り扱うことのない低学年向けの工作の実技研であったが、教材開発の視点や生徒への指導のポイントなどを指導していただき大変充実した内容となった。

また、公開授業研修会では小学校の授業を中学校の教諭が、逆に中学校の授業を小学校の先生方が参観し、授業検討を行うことで、新鮮な意見交換や小・中学校それぞれの立場では気がつかなかった新しい視点での授業づくりが検討されることにとても大きな意義を感じることができた。



(2) 成果と課題

○成果

- 小・中連携で研究を進めてきて、今大会での取組により更に会員同士の結束が深まり、それぞれの部会でお互いが学びを深められる教科等研究会となった。
- 前大会のテーマとなったUDの視点の研究を引き継ぎ、深めてきたことにより、上益城全体の図工・美術の授業において「どの子ども授業に参加できる」授業づくりが更に進められたと感じる。



○課題

- ・ 前大会の成功を機に、今後も上益城全体でUDの視点に基づいた授業を実践しているが、このことをさらに徹底できるように取組ながら、今後はアクティブラーニングの考え方も学び、より一層子どもたちが楽しく授業に取り組めるようにしていかなければいけない。



4 実践事例

(1) 授業の概要

題材名 中学2年「ルネサンスの美術」 益城中学校 中川幸恵教諭

この題材では、イタリア・フィレンツェを中心に展開したルネサンスについて、代表的な3つの作品からその特徴を学んで行く内容である。その3作品にはルネサンス期の巨匠であるレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの作品を鑑賞し、それぞれの良さを見つけ、そこからルネサンス期の芸術家達が目指した、生き生きとした人物表現等がどのような方法で描かれているかを学ぶ内容である。

(2) 学習指導案

中学校授業

中学校2年

分野：鑑賞

題材名 「ルネサンスの美術」

授業者 中川 幸恵（益城町立益城中学校）

場 所 2年1組教室（授業クラス2年5組）

題材について

ルネサンスは、14～16世紀、イタリアから西ヨーロッパに拡大した人間性解放をめざす文化革新運動である。ルネサンス美術は、美術の分野におけるルネサンスの現れであり、イタリア・フィレンツェを中心に展開し、絵画、建築、彫刻などあらゆる芸術に影響を与えた重要な芸術運動である。そのため、生徒にはぜひ学ばせたい題材である。

ルネサンス期の巨匠としては、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロがあげられるが、彼らの作品には、生き生きとした人物表現など、様々な魅力がある。今回は3名の作品を鑑賞することによって、解剖学に裏打ちされた精密な人体表現や遠近法、柔らかな陰影の表現などのルネサンス期の作品に共通する特徴を感じ取らせ、そのよさや美しさを深く味わせた。

UDの視点

- 理解しやすく見やすい板書。
- 鑑賞に集中できる作品提示と場の工夫。
- 自分とは異なった見方や感じ方に触れるためのカードの活用。



題材の目標

関

○ルネサンス期の作品や作者に興味を持ち、積極的に鑑賞することができる。

鑑

○ルネサンスの作品の造形的なよさや美しさなどを感じ取るとともに、各作品に共通する表現に気づき、ルネサンス美術の特徴を理解することができる。

本時の目標

目指す子どもの姿

ルネサンスの作品のよさや美しさ、特徴を造形的な根拠をあげて（キーワードとして示した言葉を使って）説明できる。

児童生徒の実態

・ルネサンスについては社会科の授業で学習しているが、どのような作品があり、特徴があるかはわかっていない。作品などに対する興味があり、反応が早い。が、じっくりと深く考えることが難しい生徒もいる。

そのために授業者は・・・ねらいに即した作品を精選し、鑑賞する時間を十分に確保する。

学習活動

発問や指示

UDの手立て

1

本時の学習確認

○ルネサンスの画家で知っている人はいますか？
○ルネサンスの作品の特徴は？

【時間の構造化】
見通しが持てるように、1時間の流れを板書する。

2

作品の鑑賞
【個人】

○3つの作品を見て、自分が魅かれた作品を1つ選び、よさや美しさを感じ取ろう。

【場の構造化】
集中して見ることができるよう場所を分けて掲示をする。

3

選んだ作品の鑑賞
【グループ】

○同じ作品を選んだもの同士で、感じ取ったよさや美しさを伝え合おう。

【共有化】
異なる見方や感じ方を意識させ、自分の見方や感じ方を広げるようにする。

4

感じ取ったよさや美しさなどを出し合う。

○他の人の意見で、なるほどと思ったことを見つけよう。

【共有化】
自分の選択した以外の作品についての見方や感じ方に触れ、自分の見方や感じ方を広げるようにする。

〈主発問〉ルネサンスの作品の特徴とはなんだろう。

5

発表

【個人→一斉】

○3つの作品の特徴の共通点は何だろう。
○造形的な根拠をあげて説明して下さい。

【焦点化】

共通点を探することでルネサンスの特徴を明確にする。

6

まとめ

【一斉】

○今日の授業を通して感じたこと学んだことを（キーワードを使って）まとめましょう。
・ルネサンスの美術作品をどう思う（感じる）か。
・今日の学習で見方や感じ方を広げることができたか。

【共有化】

学習のまとめが容易にできるよう、キーワードを提示し、板書を整理する。

（3）授業研究会の概要

① 自評

- ・今回の授業のねらいはルネサンス期の作品の良さや特徴を掴み、説明ができること。UDの手立てを授業に組み込み、全員参加を促すことができた。しかし、鑑賞作品に偏りが出てしまい無理矢理3つのグループにしたことやキーワードを十分に示すことができず、最後のまとめにもキーワードを使って書いてあるものが少なかった。

② 質疑応答

③ 研究協議

※ 質疑応答と研究協議については、「授業研究会後の感想」とほぼ同じ内容。

＜授業研究会後の感想＞

・鑑賞の授業では色々な意見が生徒から出ますが、どんな意見も否定しないことがやはり大切だと感じました。その中から、より良い言葉や気付いて欲しい視点を練り上げ引き出していくことができていました。美術作品について、私もわからない部分もありますが、子ども達と一緒に今日のような授業をつくることができたらしかったです。また、題材選びも含めて美術科のUDの視点も大変参考となりましたので、どんどん取り入れていければと思います。

④ 助言・まとめ

- ・UDの視点から、今回の授業では「共有化」「場の構造化」「焦点化」に取り組んであった。言語活動が鑑賞の授業の中心となるが、“話し合いができた”では能力や資質を身につけたことにならない。中学2年生では“批評し合う”という項目が学習指導要領に示されており、このことを達成するためのUDの視点ではないかと思う。また、表現に関連した鑑賞の授業は続く作品づくりに活かされていくが、本時のような独立した鑑賞の授業では他の項目に関連させづらい面もある。そこで出た意見をカード化し、教室に掲示するヒントカードを生徒の言葉で作るなど、活用の工夫が求められる。

